

生物多様性保全へ交流

韓国の学生、愛教大訪れ発表



生物多様性の保全に向けた取り組みで県と交流がある韓国北東部・江原道の大学生四人が七日、刈谷市の愛知教育大を訪れた。それぞれ研究成果を英語で発表し合い、保全の将来を担う学生同士で親交を深めた。

採択された「愛知目標」の達成に向けて先進的に取り組む世界八自治体でつくる広域自治体連合に名を連ねる。両自治体の交流事業の一環として、江原大学で環境問題を学ぶ男子四人が六日に来日した。

愛教大では、島田知彦准

日本固有種のカエルの様子を観察する韓国の大学生たち（右側）＝刈谷市の愛知教育大で

教授の研究室で生物学を学ぶ七人が出迎えた。江原道の学生たちは、大学が管理

する演習林での動物の生態や植生の調査結果を発表。愛教大からは四年の渋谷悠里菜さん（三）が、県内の水田にいるカエルの分布や生息状況の研究成果を説明した。その後、両大学の学生たちは、研究室で飼育する

日本固有種のカエルやイモリを観察したほか、近郊の湿地帯で両生類の調査も行った。三年のバク・ボンジョさん（三）は「フレンドリーに出迎えてもらって感謝している。両生類を初めて触っ

たけど、かわいくて、命の大切さを感じ、生物多様性を守っていく意義をあらためて感じた」と話した。江原道の学生たちは八日に岐阜県内の水族館施設を視察し、九日に帰国する。

（神谷慶）